

認知症グループホーム

「のじり苑」新聞



8月



先月は、雨模様が続きましたが、天気の良い日はほとんどの利用者様が畑仕事や、外でのお茶会などに参加され、楽しく活発に過ごしておりました。しかし、夏バテ等疲れが出てくる季節でもありますので、利用者様の健康管理には水分補給、様子観察をし充分気をつけております。

6周年祭では、利用者様、ご家族様にご参加いただき誠にありがとうございました。お陰様で無事に終えることができました。職員一同、一生懸命取り組みましたが、楽しんでいただけましたでしょうか？

来年は今年以上に楽しんでいただけるよう努めたいと思っております。それでは、今月ものじり苑新聞をお楽しみください！



創立6周年記念祭



29日、のじり苑は創立6周年を迎える事ができました。スペシャルゲストとして山上 進 様を迎え約1時間による三味線の演奏会を行いました。皆さん、笑顔で手を叩いて楽しんでいる様子でした。

職員の出し物ではカラオケとバルーンアートという難しい技に挑戦しました。作品は、創立当初から住んでいらっしゃる利用者様にプレゼントとして渡し大変喜んでいただけることができました。カラオケでは、「あんた上手だね」と褒められとてもうれしい気持ちになりました。

大成功に終わったと感じております。今年は、昨年とは違い一人ひとりに手作り弁当を昼食として提供しました。完食される方がほとんどで、デザートで出したスイカや水ようかんもおいしいと喜んで頂けました。本当に嬉しく思います。

ご家族の方からは、「おいしい、こゆのもいいね」と嬉しいお言葉を頂けることができました。

こうして、6周年を迎えることができたのも利用者様、そしてご家族の方々のおかげだと思っております。

来年は、これ以上のものを職員一同で考え楽しんで頂けたらと思います。

6周年祭に参加していただいた皆様本当にありがとうございました。今後とも、のじり苑を宜しく願いいたします。

豊島 由輝

おたんじょうび おめでとう

28日 田中 善三郎様

苑での初めての誕生日を迎えられました！数日前から誕生日が近いという事を話されてきました。

当日も何やら落ち着かない様子で、午後から誕生日会が行われる事を聞かれとても遠慮されていました。

誕生日会が始まるととっても喜んでいただけている様子が伺えました。

誕生日会終了後も全テーブルを挨拶しお礼を述べられていらっしゃいました。

のじり苑でのたくさんの誕生日会を迎えられるよう元気に過ごしましょう！

佐々木



ファイト!

新人紹介

小笠原 貴志さん



ほのぼのとした雰囲気でお利用者様を和ませる優しい職員です！6月に結婚したばかりの新婚さんです。

お茶会

7月のある日曜日、外は曇り空でしたがちゅーりっぷユニット、さくらユニット合同による「お茶会」を苑の外の庭で行いました。

普段、あまり外へ行かれない利用者様も参加され、珍しい顔ぶれとなりました。

早速、民謡が得意な利用者様が歌を歌われ、皆さん手拍子で盛り上がりおりましたが、途中で他の利用者様も歌を歌われました。

その利用者様は、散歩好きな方ですが、今まで誰もその方の歌声を聴いたことがないので、皆さん手拍子とともに聴き惚れている様子でした。

他にも苑の庭に咲いている花や実りつつある野菜を眺めながら「もう少しでできるね」と収穫を楽しみにされている方もおられました。

最後は、さくらユニットで使用している大きい歌詞カードをみながら全員で歌を大合唱しお開きとなりました。

あっという間に時間は過ぎ、ほとんどの利用者様に楽しんでいただけました。

次回、今度は天気の良い日に再び「お茶会」を行いたいと思っております。

最上 聖子



初収穫です！

昨日、今年初めての収穫をしました。キュウリ2本とピーマン1個です。収穫された利用者様は「これとってきたの。よくこんなに大きくなったわね」と少し興奮されて食事当番の職員に持ってきてくださいました。早速、キュウリなますにこしらえて、夕食に全員で美味しく頂きました。やっぱり採れたては違いますね。

葛西



私はその日、たまたま夜勤勤務だったので利用者様が収穫してくださったキュウリなますをいただきました。とても美味しく、おかわりしたい気分でした。

次はどんな野菜が実っているのか楽しみです。今度は私も利用者様と一緒に収穫したいと思います。

最上 聖子

認知症への理解

認知症の人にとっては排泄をまかせることは尊厳を奪われる思いのするつらいことです。

「年をとっても下の世話だけはされたくない」と、誰しも思っています。他人に排泄の世話をされるのには、大きな抵抗があるものです。

症状が進んできたら、できるだけ自分で用が足せるように、トイレの中に手すりをつけたり、脱ぎ着が楽な衣服を用意しましょう。

頻尿でトイレに行く回数が多い場合や、足が不自由な人にはポータブルトイレを部屋に置くのもアイデアです。

足腰が悪くなってゆっくりとしか歩けなくなったり、トイレの場所がわからなくなったら、失禁が始まるサインと考えてください。

失禁をしても、ビックリしたり、しかったりせずに、さりげなくふるまうことが大事です。「心配しないでいいですよ」とやさしく声をかけて、着替えをしてもらいます。

本人にとって、失禁は大きなショックです。へたに慰めるより、失禁したことを忘れてあげて自然にふるまうほうがいいようです。

そわそわしたり、ズボンに手をやったり、トイレに行きたいようなそぶりがあったら、それとなく「トイレに行きましょうか」と声をかけて、失禁を防ぎましょう。

それでも失禁の回数が増えてきたら、おむつの使用を考えていいかもしれません。おむつにするのは本人にとって屈辱感がありますが、最近は軽失禁用の下着などおしゃれで便利な製品が発売されています。最初は、こうした製品や尿取りパッドなどから始めるといいでしょう。

日中におむつを使い始めても、トイレに連れていくことは、自尊心を保つうえでとても大きいことなのです。

最上 聖子

おしらせ

「のじり苑」では8月30日に「グループホームあさひ」さんとの合同による「納涼祭」の開催グループホームあさひさんの駐車場をお借りして予定しております。様々な催し物、焼鳥やかき氷などの出店など、楽しめる内容で企画しておりますので、ぜひご家族の皆様も足を運んでいただけたらと思っております。

グループホームのじり苑

〒030-0122 青森市野尻字今田58-1

TEL 017-738-6863 FAX 017-728-6448

ブログ

<http://nojirien.livedoor.biz/>

ホームページ

<http://www1.ocn.ne.jp/~nojirien/>

メールアドレス

nojirien@circus.ocn.ne.jp